



堀マラソン大会

毎年2月に開催される「桐生市堀マラソン大会」は、明治、大正、昭和と長期にわたって桐生市の発展に尽力し、「スポーツの父」として親しまれた機業家・堀祐平氏を顕彰し昭和28年（1953）に始まったものだ。

堀氏は明治10年（1877）に長野県上高井郡井上村（現須坂市）に生まれ、独学で織物の意匠技術を学び、20歳の時に憧れていた織物の街桐生の地を踏んだ。市内の工場に住み込み奉公に入った堀氏は、斬新な織物意匠を製作、その技術の優秀さで頭角を現した。

明治38年（1905）、29歳の時に巴町に数台の織機を備えた「堀祐織物工場」を創業した。堀氏の功績は、いち早く人造絹糸の製品化に成功したこと。当時は純絹や絹綿交織の織物が中心で人造絹糸はあまり用いられなかったが、緯糸（よこいと）に人造絹糸、経糸（たていと）に絹を使用したリボン織を開発した。前原悠一郎氏は著書「桐生の今昔」のなかで堀氏のことを「人絹応用の先覚者」と記述している。

この成功で工場は大きく拡大、従業員は最盛期には150人を超え、桐生市内でも有数の工場に発展した。また工場経営にキリスト教の博愛主義を取り入れ、週休制度や従業員の健康管理や福利厚生も充実させるなど時代を先取りした経営が話題を呼んだ。

一方、スポーツを愛好した堀氏は、昭和2年（1927）夏に桐生中学校の甲子園大会初出場がきっかけとなり設立された桐生市体育協会の初代会長に就任。全市民が参加できる広大な競技施設の建設を計画、私財を寄付して、野球・陸上・テニス・水泳などの競技ができる「新川運動場」を同3年（1928）に完成させ、球都桐生の礎を築いた。

昭和28年（1953）、堀氏が77歳の喜寿を迎えたのを機に堀氏の業績を讃える「頌徳碑」が新川球場に建立され、その記念行事として始まったのが「堀マラソン大会」である。

堀氏ゆかりの新川公園がスタート、ゴール地点となり、第60回を迎える今年は2月9日に開催、参加登録者が初めて1万人を超える大会に成長した。

機業家・堀祐平を顕彰し始まる
市民総ぐるみの大会に成長

*写真はFT写真コンテスト応募作品から「スタート」星野紀典氏撮影

*参考文献：桐生人物誌・下巻（桐生市教育委員会発行）